

エイズ治療拠点病院医療従事者

海外実地研修報告書

1 研修参加者

所属・職名： 札幌医科大学附属病院 看護師
氏 名： 宮越 郁子

2 研修日程・コース

日 程：平成24年10月13日～平成24年10月28日
コース名：サンフランシスコ/看護師コース

3 研修の内容

10月13日（土） 到着

10月14日（日） 時差調整

10月15日（月） 研修コースのオリエンテーション

参加者、スタッフの紹介や目的・コースの概要について説明

講義ディスカッション「この研修で何を学ぶのか」

研修を開始するにあたり研修参加者の期待と研修スタッフの意図を明確にし共通の視点を据える作業

講義「サンフランシスコのエイズケアシステム」

社会機構の大きな図式の中で医療機関の役割・行政・民間団体との関連や連携について

10月16日（火） ワークショップ「ヒューマン・セクシャリティ」

人間のセクシュアリティとは何か、また性感染症であるHIVとの関連には何が考えられるのかなど、学習と意見交換

ワークショップ「エイズ101」

エイズ・HIVに関する基本的な知識の復習と、それをどう伝えていくかを学習

10月17日（水） 講義「HIV外来でのチーム医療」

HIV外来ケアに長年の経験を持つ現役スタッフから、外来チームの中での役割と連携について研修。内容は看護ケースマネジメント、ソーシャルワーク、自己健康管理プログラム、栄養学的ケア、HIVカウンセリング等

10月18日（木） 実地研修「HIV外来」

HIV外来におけるチーム医療活動を実際現場に入って見学。対人関係スキルや各種職間のコミュニケーション、情報の均一化、コンピューターの活用

- 10月19日（金） パネルディスカッション
「HIVと心理問題—HIV心理諸相の歴史と今、そしてこれからの展望」
日本人のパネリスト（患者・看護師・SW・カウンセラー）を迎えHIVのこれまでの足取りと現状、将来の展望についてパネルディスカッション
- 10月20日（土） 個人学習
- 10月21日（日） 休み
- 10月22日（月） ワークショップ「感情を聴く力」
効果的な聞き手になるためのカウンセリングスキル、カウンセリングの基本的な姿勢を学ぶ
- 10月23日（火） ワークショップ「難しい患者の心理面の理解と対応方法」
研修生6名が持ち寄った6事例について、精神科医と心理学者のリードにより、どのようなケア・アプローチが良いかを学習
- 10月24日（水） カウンセリング・ラボ
これまでに学習したことを、実践で習得するためにロールプレイを繰り返し行う。スキルの習得をめざす
- 10月25日（木） 個人学習「研修のまとめとアクションプランの作成」
研修の全過程をまとめ、研修で学んだことをどう活用していくかを自分が課題・目的としてきたものと照らし合わせてアクションプランをまとめる
- 10月26日（金） 研修発表「アクションプランの発表」
それぞれのアクションプランを発表し意見交換や気づいたことを話した

4 研修の成果・感想

サンフランシスコ（アメリカ）のHIVの歴史とケアシステムの成り立ち、それに伴う患者の心理やその患者を支えケアしてきた人々の思いを学んだことは貴重な体験でした。歴史とともにどんなふうに変化してきたかを現場の方（パネリスト）から聴くことは、大変興味深いものでした。

保険・病院のしくみ・社会資源・サポートシステムの違いはあるものの、患者が受ける偏見や差別、恐怖や不安を抱えながら生活するという点での患者の心情・心理は同じです。そのような患者の精神的な安定を図ることはとても重要だと考えます。しかし私は患者の気持ちを聴くことはあまり得意ではありませんでした。得意ではないために「時間が取れない」「難しい」などと考えてしまっていたのですが、この研修で得たカウンセリングスキルや学習を役立てれば「15分あれば十分患者の気持ちは聴ける！」ということが理解できました。そして、職場に戻ったら「進んで患者の話を聴きたい！」と思えるようにもなりました。人の感情を聴くということは容易なことではありませんが、患者が自分の気持ちを言葉にして話をすることで頭の中でも整理がつき、寄り添って聴くことで力になれるならば、もっと話を聴いていきたいと考えます。そうすることで患者の行動変容につなげ、受診継続につなげていきたいです。

カイザー病院ではアメリカの医療やチーム診療の実際を見学でき、知識が深まりました。自分の病院でのチーム医療も同じように行えているので自信にもつながりました。カイザーの看護師さんはとても元気とパワーがあり、いつも元気に患者とかかわっていることは見習わなけ

ればならないと思いました。私たちも自分の心のケアをして元気な看護師になりたいと思います。

この研修で得たことは、院内・院外・地域へ伝え、多くの理解を得ることができるよう努めます。また、知識・意識を広め、高めることでエイズ予防についての啓蒙・啓発につなげていきたいと思えます。

最後に、この研修を受けるにあたり、たくさんの方々のご理解とご協力、ご支援をいただいたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

今後とも宜しくお願い致します。